

事例11:「お店屋さんごっこをしよう」5歳児(11月)

幼児期の終わりまでに育てほしい姿(10の姿)との関連

②自立心 ③協同性 ⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚 ⑨言葉による伝え合い

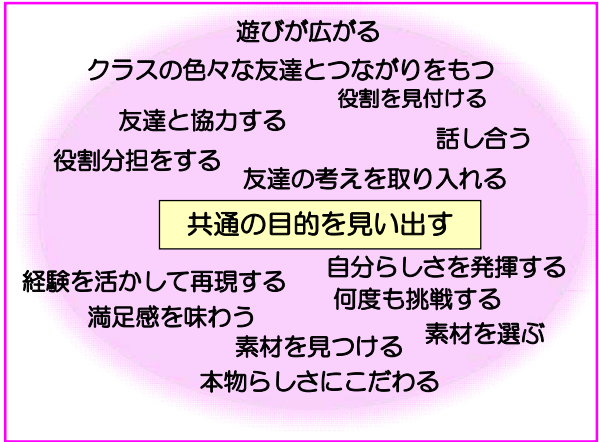
架け橋期のカリキュラムとの関連
(遊びの中で経験させたいプロセス)

これまでの姿

・子ども達は木の実や小枝などの自然物集めをしたり、それらを使ってレストランごっこや製作遊びをしたりとこの季節ならではの遊びを友達と一緒に楽しんでいた。
・火曜日での買い物の経験から部屋でもお店屋さんごっこで売り買いを楽しんでいた。また子ども達がイメージを伝え合い役割を分担して一緒に遊びを進めていた。

◎ねらい◎内容

- ◎秋の自然に興味・関心をもちながら、友達と一緒にイメージを膨らませて遊ぶ楽しさを味わう。
- 身近な秋の自然物やいろいろな材料を使って製作をしたり、遊びに取り入れたりしながらお店屋さんごっこやレストランごっこなどをする。
- 友達同士で思いや考えを伝えたり受け入れたりしながら、助け合って作る。
- 文字やものの形に興味をもち、まねて書いたり工夫して飾ったりする。



遊びの様子(番号:10の姿との関連)

②③A児が「レジも作ったよ」とレジを持って来た。するとB児が「そしたらお金もいるね〜」「僕、これで作る」とペットボトルのふたを持って来た。他児も「僕も!」「私は紙のお金を作ろう」と色画用紙でお金を作り始めた。

③「このお金、0がいっぱいだよ」「0がいっぱいやと高いから長い紙がいる」と話しながら作った。また空箱を使って思い思いの財布を作り、できたお金を入れた。

お金を作ったK児は、お店屋さんに行って②③⑧⑨「ドーナツください」と言うと、店員のC児が「は〜い」とドーナツをトレーに入れて持って来た。すると、レジにいたD児がC児に「袋にいれんといかん」「袋に入れるから待ってね」とあらかじめ作っていたお持ち帰り用の袋に入れて渡した。お金を払うとレジにいたD児とA児が「おつり、おつり」とレジからおつりを出そうとして「これくらい?」「もっといる?」と話しながらおつりを渡していた。

★環境の構成 ○保育者の関わり

★お店屋さんごっこに必要な素材(木の実や枝・落ち葉、段ボール紙等)や道具(ペン等)を幼児が取りやすい場所に準備しておく。

○“お金だから紙”等といった大人の固定概念ではなく、子ども達の豊かな発想や主体的に取り組む気持ちを大切に、困ったときには相談にのったり、全体に共有したりする。

★友達同士で共通の目的をもって、役割分担をしたり、思いや考えを出し合って遊びを進めていけるよう、お店さんと製作場所の位置関係を工夫する。

○★子どもが試行錯誤しながら自主的に取り組んでいる時は、次の活動時間を変更する等、十分な時間を確保したり、納得できるよう配慮したりする。

遊びや学びのプロセス(10の姿)

「お店屋さんごっこをしよう」活動のプロセス

お店屋さんごっこのやりとりや、役割分担をしながら遊ぶ姿

○満足いく時間の配慮をする。

★遊びの場(位置関係等)を工夫する

友達と一緒に思いや考えを伝えながら、作ったお金を使って遊ぶ

○自分達で遊びを進める楽しさを味わえるよう、見守り、必要ときには相談に応じる。

★様々な素材を身近に置く。

お店屋さんごっこでお金が必要なことに気づき、どんなお金がいいか考え、作り始める

⑧数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

数字に0をたくさんつけると金額が高くなるという事を友達と考えながら書いている。0が多いのは紙のお札であるという事を生活体験の中で認識している。



⑨言葉による伝え合い

より本物らしいお店のやりとりになるように、自分なりに考えたことを友達に伝えたり、よりよい方法を考えたりしながら遊びを進めている。

③協同性

友達と一緒に共通の目的に向かって遊びに必要なお金や財布などを試行錯誤しながら作っている。

③協同性

お店屋さんごっこでレジ係や品物を運ぶ人、買い物をする人など自分達で役割分担をして楽しんでいる。

②自立心

自分でイメージして作ったレジやお金などを使って遊びを広げていくことで満足感や達成感を味わっている。

小学校教員の気付き

◆1つの目的に向かって協同している時に、必要以上に保育者が援助に入っていない。子供の主体性を育むにあたって“待つ援助”の大切さを感じた。

◆お金を作る過程で「これはこうでない」と固定概念をもって関わるのではなく、子供の発想や思いを大切にしている関わりや、それを実現できる環境があるのがいいなあと思いました。

◆お店屋さんごっこをするにあたり、子供の様子を見ながら、必要な物を事前に準備している。必要な時にすぐに掲示できる環境を準備するには個々の子供の動きやつづやきをよく聞いているからだと思う。

保護者への発信ポイント

◆保育者に頼ることなく子ども同士で試行錯誤しながらお店屋さんをより本物らしく楽しむ姿が年長さんらしいです。このようなこれまでの経験を活かして、豊かな発想から遊びが深まっている年長後期の育ちを具体的なエピソードや写真を交えて、伝えていくといいですね。